

ICF 四半期報告

2025年7月～9月

<7～9月活動報告：総会>

◆ICF Autumn Forum 2025（9/17）

9月17日に「ICF Autumn Forum 2025」を開催し、会場とオンラインを通じて約100名の方々にご参加いただきました。

【社会課題研究報告】

2025年3月に発行した「社会課題リスト2025」の概要と、上半期に実施した「社会課題ディスカッション」の内容を紹介しました（「社会課題ディスカッション」での議論テーマなどは次ページ記事をご参照ください）。上半期の「社会課題ディスカッション」での議論を基に、下半期より新たに「出前社会課題ディスカッション」を展開する予定です。セミナー形式で社会課題を学ぶ「教養習得型」、課題をさらに深く掘り下げる「分析型」、ビジネス創出支援に重点を置いた「実践型」の3つの形態をベースとしており、会員企業や団体の多様なニーズに応じたプログラムを提供します。

【下半期の活動計画】

下半期の活動計画について、重点テーマ別に共有しました。

テーマ	活動目的・内容
女性活躍推進	キャリア形成とライフイベントの両立を支援
博士人材活躍推進	産業界と博士人材の接続を促進
免許返納支援事業構想	高齢者が安全に移動できて利便性の高い交通システム構築・確保
ロボット研究会	ロボット活用で人手不足を解消し、新たな市場を創造する研究
核融合産業研究会	核融合の産業化に向けた勉強会の実施
ディープテックアクセラレーションプログラム	2026年4月よりスタートアップ募集開始予定
日本CDR協議会	CDR（大気中の二酸化炭素除去）の加速や脱炭素社会の実現を目指した協議活動

【会員ピッチ】

新規会員を中心に先進的な取り組みを発表しました。具体例として、AIと物理シミュレーションを組み合わせ環境課題に挑むスタートアップの活動や、地方公共交通の課題をAIで解決する新たなシステム導入事例が紹介されました。また、メタバースを活用した不登校児童支援や食の交流の場を通じた社会的孤立・孤独問題への取り組みも注目を集めました。

詳細は、ICFサイトにて近日公開予定の開催レポートとアーカイブ動画をご覧ください。



プログラム終了後の交流会

<7～9月活動報告：社会課題研究>

◆社会課題ディスカッション

6月～7月にわたり「社会課題リスト2025」に掲げた全7領域（エネルギー・環境、食農、モビリティ、レジリエンス、ウェルネス、教育・人材育成、DE&I）の解説とそれを踏まえた「社会課題ディスカッション」を開催しました。ディスカッションでは、例えば以下の意見・提案が出ました。

領域（開催日）	意見・提案
DE&I（6/26）	・ 多文化共生の推進 ・ 人材評価の透明性の向上
教育・人材育成（6/26）	・ スタートアップ企業と連携した「まちづくり」を視野に入れた教育事業展開 ・ 博士人材と環境ビジネスのマッチング可能性の検討
エネルギー・環境（6/27）	・ カーボンクレジットの活用推進 ・ 揚水発電技術の再評価 ・ 小規模な実証実験の場を提供する必要性
モビリティ（6/27）	・ 高速道路の逆走問題への対応 ・ 地方高齢者の移動手段確保 ・ 自動運転技術の活用 ・ 飲酒運転対策の強化
食農（7/3）	・ 生物多様性を数値化する指標の導入 ・ 食品ロス削減のための教育の重要性
レジリエンス（7/3）	・ 防災教育の強化 ・ VRを活用した危機感の醸成 ・ 地中化インフラのリスク管理
ウェルネス（7/4）	・ 子どもの健康問題への対応 ・ SNS依存対策 ・ 生活習慣病の予防と対策 ・ 介護食の新しい市場展開の可能性

今後は、今回のディスカッションで得られた意見を踏まえ、社会課題のさらなる深掘りを目的とした勉強会やセミナーを開催するほか、ビジネスアイデアの解像度を高めていく取り組みを進めていきます。たとえば、レジリエンスでは自然災害対応に関する勉強会（防災教育やボランティア活用など）、食農では生物多様性評価の議論に焦点を当てたセミナーなどを計画しています。また、博士人材の活用と環境ビジネスのマッチングといった具体的な施策についても検討を進めていく予定です。

開催レポートは、こちらからご覧ください。

開催レポート：<https://icf.mri.co.jp/research/research-24021/>

◆出前社会課題ディスカッションの紹介

上記のような社会課題ディスカッションを、会員企業・団体へ訪問して実施する「出前社会課題ディスカッション」を企画中です。セミナー形式や特定の課題を深掘りする型、さらにはビジネス創出を目的とした型など、ご要望やニーズに応じて社会課題リストを基に多様なプログラムをご提案可能です。ご関心をお持ちの方は、ぜひお気軽にお問い合わせください！

◆会員ページからの社会課題リストダウンロードスタート

7月9日より、ICFサイト会員ページにて「社会課題リスト2025」のダウンロードが可能になりました。お申込みフォームの入力は不要で、簡単に閲覧・ダウンロードいただけます！

ICFサイト会員ページ ログインページ：<https://icf.mri.co.jp/limited/>

なお、会員ページのログイン情報をお忘れの方は、専用フォームからお問い合わせください。

ICF会員専用サイトID・パスワード問合せ：<https://mri.smartseminar.jp/public/application/add/8862>

<7～9月活動報告：社会実装研究>

◆パブリックアフェアーズ（セミナー開催・PAガイダンス（基礎編）発行）（7/17）

前年度、ICFでは社会実装研究として、パブリックアフェアーズ（PA）に着目し、関連セミナーやワークショップを開催してきました。この度、その活動成果を「PAガイダンス（基礎編）」として取りまとめ公開しました。本ガイダンスの詳細はこちらをご覧ください。

<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-24377/>

また、PA活動を実践する際に押さえておくべき、国の政策動向に関して、6月に公表された「骨太方針2025」を題材にその読み解きを行うセミナーを開催しました。（7/17）

開催レポートとアーカイブ動画（会員限定）は、こちらからご覧ください。

開催レポート：<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-23916/>

アーカイブ動画：<https://icf.mri.co.jp/limited/research/research-23907/>

<7～9月活動報告：共創活動>

◆ICFロボット研究会 #2 ～テクノロジーの先駆者が描く未来社会～（7/30 - 31）

2日間に渡りロボット研究会（第2回）を開催し、大学発ベンチャーなどが描く未来社会を紹介しました。

Day1では、豊橋市産業部地域イノベーション推進室 桑原裕明氏と輝翠株式会社事業開発マネージャー 小林 輝之氏が登壇し、農業の人手不足解消に向けたロボットの可能性と、行政・ベンチャー企業を含むエコシステム構築の重要性をご紹介いただきました。参加者からは、現場の声を中長期的に聴取し、具体的ニーズ（例：ロボットの高さを数cm下げるだけで導入可能になる）を反映した設計の重要性や、AI・データ活用だけでなくハードウェア開発も不可欠であること、さらにロボットが作業効率化にとどまらず、収益性や経営効率の向上にも活用できる点が指摘されました。

Day2では、アイ・ロボティクス株式会社 代表取締役社長 安藤 嘉康氏と株式会社TriOrb 代表取締役社長 石田 秀一氏が、施設管理分野でのドローンや全方向移動ロボットの活用事例を紹介し、現場制約を超えた安全かつ効率的な作業の実現や、異なる技術の連携による課題解決の可能性を説明いただきました。複数のロボット技術の連携が課題解決には有効であり、現場ニーズや安全性を考慮した段階的な導入が重要であることや、全方向移動や協調搬送技術は、現場の効率性と安全性の向上への貢献が期待できるとの見解も示されました。

開催レポートやアーカイブ動画（会員限定）は、こちらからご覧ください。

開催レポート（Day1）：<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-24132/>

開催レポート（Day2）：<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-24137/>

◆ICFロボット研究会 #3～ロボット研究の最先端、そして社会実装へ～（9/24）

9月24日に、東京科学大学にてロボット研究会の第3回イベントを開催しました。当日は、ロボット領域のディープテックの中でも「ソフトロボット」の最先端研究に取り組む、東京科学大学工学院の前田真吾研究室と難波江裕之研究室を見学。その後、前田教授より改めて、最先端ロボット研究の紹介とその社会実装、その先の社会課題解決などについてお話しいただきました。また、川崎重工業様より、事例を交えて、高度化するロボットとその社会実装、ロボット・プラットフォームを基盤とした共創の在り方などについてご紹介いただきました。最後に、当社より、今年度の自主研究「AIロボティクス研究」について、サービスロボットの社会実装を加速する効果や方法、日本の勝ち筋を提言しました。

事業から距離があると思われる「ソフトロボット」の社会実装例（介護における摘便ロボットへの活用）や、研究者の生の声を聞ける貴重な機会として、満足度の高いイベントとなりました。質疑応答では、川崎重工業様が提案する、AIロボットの学習・制御にかかわるデータの管理方法や、プラットフォーム間の連携の姿、また当社が提案する新たなステークホルダー「サービスプロバイダー※1」の役割を誰が担うのかといった点が議論されました。

詳細は、ICFサイトにて近日公開予定の開催レポートとアーカイブ動画をご覧ください。

※1：サービスロボットの導入先となる多様な業界の課題やニーズを理解し、ロボットを製造・導入・運用ができるステークホルダー

<7～9月活動報告：共創活動>

◆大阪・関西万博コラム～“リアル”テクノロジーが創造する未来社会～

ICFでは先端テクノロジーでどのような社会課題解決ができるかという、技術視点も加えた形での事業化検討、社会実装に向けた活動を推進しています。

2025年7月、この取り組みの一環として、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）を視察しました。未来社会の実験場である万博の中でも、デジタル空間に限らずリアル空間まで直接働きかける技術（“リアル”テクノロジーと呼びます）が特に印象的でした。

そのリアルテクノロジーの紹介と万博で展示する効果、そしてリアルテクノロジーが創造する未来社会の展望をコラムとして執筆しました。

第1回：<https://icf.mri.co.jp/information/information-24434/>

第2回：<https://icf.mri.co.jp/information/information-24447/>

<7～9月活動報告：セミナー>

◆民間企業における博士人材の活躍促進に関するセミナー

（株式会社アカリク・ICF共催セミナー）（全3回 ライブ配信9/18、9/25、10/2）

「博士人材の民間企業における活躍促進にむけたガイドブック」（経済産業省・文部科学省、2025年3月発刊）の作成に有識者として協力した株式会社アカリクと、作成支援を受託した三菱総合研究所との共催による「博士人材の『捉え方』『見極め方』『活かし方』」のセミナー（全3回）を開催しました。3回合計で約280名のお申込みをいただきました。

参加者アンケートでは各回とも高い満足度をご回答いただき、好評のうちに終了いたしました。また、毎回とも多数のご質問をお寄せいただき、第1回は「新卒で入社する博士人材に、どのようにビジネスの感覚を持たせればよいのか」、第2回は「博士人材として入社された方は、入社後どのような評価を受けておられるのか」、第3回は「中小企業において、博士人材を採用する意義はどのようなところにあるのか」などをテーマに質疑応答が闊達になされました。

◆第9回ICFオンライン座談会～ヘルスケアの事業化って？～（7/29）

近年、ヘルスケア業界への異業種参入も増えています。三菱総合研究所が進めている事例を紹介するとともに、一般社団法人ヘルスケアイノベーション協会の天野代表理事・大角代表理事にご登壇いただき、今後の医療・ヘルスケア業界の動向や新事業開発についてお話しいただきました。

市場規模は77兆円と大きくステークホルダーも多いことや、介護予防・認知症予防領域、メンタルヘルス支援、プレコンセプションケアといった事業機会がある一方で、薬機法などへの規制対応やエビデンス構築などが障壁となっていることが事例として示されました。

開催レポートやアーカイブ動画（会員限定）は、こちらからご覧ください。

開催レポート：<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-24645/>

アーカイブ動画：<https://icf.mri.co.jp/limited/field/field-24656/>

◆第10回ICFオンライン座談会～女性活躍推進の次の課題と解決策を考える～（9/25）

企業における女性社員の活躍を推進する動きは進展し、育児や介護との両立支援制度は十分に整ってきました。一方で、現場で働く女性たちは、一人で何役もこなさなくてはならない時間的な負担や、根強く残るアンコンシャスバイアスやマイクロアグレッションによる心理的な負担など、課題感を抱えているのも現状です。株式会社NTTデータ 技術革新統括本部Innovation技術部 イノベーションセンタ 末吉 亜樹子 氏・ソーシャルデザイン推進部 白石 有里恵 氏をお迎えして、同社の先進的なDE&I施策の制度と、女性たちのボランティアな取り組みから発展した互助機能「リアルワーママコミュニティ」をご紹介いただきました。義務でもオフィシャルの制度でもない、ボランティアなコミュニティならではの良さの可能性について議論しました。

詳細は、ICFサイトにて近日公開予定の開催レポートとアーカイブ動画をご覧ください。

<7～9月活動報告：セミナー>

◆トークセッション：データがつなぐ未来社会～医療からビジネス、そして市民へ～ (9/30)

近年、ゲノムやEHR（Electric Health Record）、PHR（Personal Health Record）、そして通信インフラやクラウド基盤など、多様なデータが社会や産業を変えつつあります。これらのデータをいかに社会の中で活用するかをテーマとし、「データをどう集め、どう活かすか」を多角的に議論し、産業や生活に広がる未来像を考えるトークセッションを9月30日に開催しました。

本イベントは、ICF会員である一般社団法人ヘルスケアイノベーション協会との共催として開催。イノベーションの発信基地でもあるCIC Tokyo Venture Caféにて、CICに入居されているスタートアップや企業の皆様も行き交うオープンなスペースで実施しました。

■プログラム

- ・オープニング（社会課題リスト紹介・イベント開催経緯）
株式会社三菱総合研究所 CR部 未来共創グループ 主席研究員 八巻 心太郎
- ・イントロダクトリートーク
テーマ：「データ社会が拓く医療と産業の未来」
一般社団法人ヘルスケアイノベーション協会 代表理事 天野 達郎 氏
- ・パネルディスカッション
テーマ：「データをどう集め、どう使うか ― 医療から社会へ」

登壇者

TXP Medical株式会社 代表取締役社長CEO 園生 智弘 氏

株式会社テック 代表取締役社長CEO 西村 邦裕 氏

NTTドコモビジネス株式会社 ビジネスソリューション本部 スマートワールドビジネス部 櫻井 陽一 氏

一般社団法人ヘルスケアイノベーション協会 代表理事 天野 達郎 氏・大角 知也 氏

株式会社三菱総合研究所 CR部 未来共創グループ 研究員 池田 優花

- ・質疑応答
- ・クロージング
- ・ネットワーキング

パネルディスカッションでは、データ収集におけるステークホルダー間のメリットの担保の重要性や、具体的なデータ活用事例の共有がデータの収集促進につながるなどが議論されました。

終了後には、会場にてネットワーキングを開催。予定時間をオーバーする活発な意見交換がなされました。本イベントを第一弾とし、さらなるビジネスへの展開を念頭に、新しい収益モデルの創出や多様なデータを集めた市場拡大戦略などを議論する第二弾のイベントを企画予定です。

詳細は、ICFサイトにて近日公開予定の開催レポートをご覧ください。



トークセッションの様子

◆日本CDR協議会 設立総会及び記念イベント(9/11)

CDR（大気中の二酸化炭素除去）を通じたカーボン・クレジット市場の創出を目指す日本CDR協議会が正式に発足、9月11日に三菱商事パークビルディングにて「日本CDR協議会 設立総会及び記念イベント」を開催しました。（設立総会時の会員企業61社、内、推進会員6社、一般会員55社）

イベントには対面で約130名、オンラインで約80名が参加しました。推進委員長挨拶に続き、ご来賓として、経済産業省 脱炭素成長型経済構造移行投資促進課長 清水 淳太郎 氏、および環境省 脱炭素社会移行推進室長 加藤 聖 氏よりご挨拶をいただきました。その後、三菱総合研究所からCDRクレジットに関する潮流についての話題提供、Google Spencer Low及び、J.P. Morgan Chase Genevieve Dingによる対談セッション「サステナビリティ戦略におけるCDRの役割：オフテイカーの視点から」、推進会員によるパネルセッション「CDRの取り組みの加速化に向けて」が行われました。

開催レポート（速報版）：<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-24612/>

<ICF会員>

7/1～9/30に新規入会された会員数は、16社・団体（非掲載含む）で、9月末時点での会員数は、632社・団体となりました。

（新たにご入会された会員）

【企業】

- ◇株式会社商船三井 <https://www.mol.co.jp>
- ◇住友商事株式会社
- ◇東邦ガス株式会社 <https://www.tohogas.co.jp>
- ◇日産自動車株式会社 <https://www.nissan-global.com/JP>
- ◇日本郵船株式会社 <https://www.nyk.com>
- ◇パシフィックコンサルタンツ株式会社 <https://www.pacific.co.jp>
- ◇本田技研工業株式会社 <https://global.honda/jp>

【スタートアップ】

- ◇株式会社アークス（ウェルネス、テクノロジー） <https://www.arcs-inc.jp>
- ◇CarbonNest株式会社（エネルギー・環境） <https://carbon-nest.com>
- ◇株式会社cicac（モビリティ） <https://mitt.app>
- ◇ソーシャルムーバー株式会社（ウェルネス、モビリティ） <https://social-mover.co>
- ◇TanoBa合同会社（ウェルネス、DE&I） <https://tanoba.jp>
- ◇株式会社Recursive（テクノロジー） <https://recursiveai.co.jp/ja>

【賛助】

- ◇芝浦工業大学 動的機能デバイス研究室 <http://afd-lab.ee.shibaura-it.ac.jp/wp>
- ◇Startup Island TAIWAN <https://startupisland.tw/jp>

<10月以降の活動予定>

◆第1回 ICF核融合産業研究会（12/12）

近年再び注目が集まっている「核融合」をテーマに、最新のトレンドや実際に動いているプロジェクトを題材にした勉強会を開催します。

初回は2025年6月に産業団体「J-Fusion」より発行されたフュージョンエネルギー白書の解説や、三菱総合研究所による核融合業界の最新情報の共有を予定しています。第2回はITER、FAST、Helixなど、国内プレイヤーが取り組むプロジェクトを題材として技術開発の到達地点を探ります。

本研究会は核融合産業のすそ野を広げることを目的としており、これまで核融合に関わったことのない方にご参加いただける設計としております。ぜひお気軽にお越しいただければ幸いです！

詳細につきましては、後日改めてご案内いたします。